7月 26日（日曜日）「それでも」の愛

【新改訳 2017】

ホセア書　11•1－12

「それでも、わたしはエフライムに歩くことを教え、彼らを腕に抱いた。しかし、彼らはわたしがいやしたのを知らなかった。わたしは、人間の網、愛のきずなで彼らを引いた。・・・・・」（3、4節）

　この章は何度読んでも、その度に胸を熱くされる個所の１つです。三節のことばを取って、神の愛は「それでも」の愛であると言えるでしょう。

　イスラエルを、神は、全き愛をもって幼いころから育て上げてくださり、苦難の時、迷い出た時、罪を犯してしまった時など、いつでも必要な時には助け出し、愛のお声をかけてくださいました。しかし、民はますます神から遠ざかり、偶像に走っていったのです。

　それでも父なる神は、愛のきずなで彼らを導いてくださいました。八節では、「あわれみで胸が熱くなっている」とさえ言っておられます。この愛がついには御子の十字架の贖いとなったのです。なんという愛でしょうか。主よ、心から御名をほめ

たたえます。

～祈り～

主よ。あなたのご愛はなんという愛でしょう。それに比べて、ますます人間の愛のなさや醜さを知らされます。あなたのご愛を裏切ることがありませんように、私たちを助けてください。

【学びのために】

Ⅱペテロ3•9参照。